

令和 2 年 9 月 13 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K09824

研究課題名(和文) 老年期精神障害における神経画像の背景病理に関する臨床神経病理学的検討

研究課題名(英文) Clinicopathological study for differential radiological diagnosis of dementia

研究代表者

藤城 弘樹 (Fujishiro, Hiroshige)

横浜市立大学・医学研究科・客員研究員

研究者番号：20536924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：レビー小体型認知症の前駆状態では、精神症状が前景化することがあるが、その臨床病理学的特徴は明らかになっていない。そのため、36症例のびまん性レビー小体病を対象として、初期症状によって、臨床病理学的比較を行った。その結果、パーキンソンニズム群が記憶障害群と精神症状群よりパーキンソンニズムの程度が重度であった。また、大脳老人斑の程度が、記憶障害群が他の2群より重度であった。近年のアミロイドイメージングや脳脊髄所見と一致する整合性のある結果であった。レビー小体病の臨床経過を明らかにする上で、脳画像などのバイオマーカー所見とともに更なる臨床病理学的検討の蓄積が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

老年期にはじめて精神症状が出現する脳病態、とくに病理学的背景は明らかになっていない。しかし、近年の脳機能画像やレビー小体病の知見が蓄積されているが、症候学的による分類に基づく診療が実施されているのが現状である。レビー小体病は、病初期に精神症状が前景化する場合があり、老年期発症の精神疾患の鑑別診断に重要であるが、その方法は確立されていない。レビー小体病を早期に鑑別することは、薬物療法の選択ばかりでなく、認知機能低下を含む臨床経過を把握するうえで重要である。また、臨床病理学的知見の更なる蓄積は、今後の疾患修飾薬を見据え、貴重と考えられる。

研究成果の概要(英文)：In the recent research criteria, the prodromal phase of dementia with Lewy bodies includes psychiatric-onset presentations. However, its clinicopathological features remains unclear. In 36 autopsy cases with diffuse Lewy body disease, clinical and pathological variables were statistically compared among three groups according to initial symptoms. The severity of parkinsonism was significantly greater in the parkinsonism group than those in the psychotic state and memory disturbance. As to pathological findings, the median senile plaque score was significantly higher in the memory disturbance group than in the other groups. These results support the fact that cerebral  $\alpha$ -amyloid accumulation contributes to determining the clinical phenotypes in terms of the timing of the onset of dementia relative to that of parkinsonism in Lewy body dementia. Further clinicopathological studies with specific biomarker data are needed to clarify disease progression patterns in Lewy body dementia.

研究分野：老年精神医学

キーワード：老人斑 アミロイド 神経原線維変化 レビー病理 レビー小体 シヌクレイン ドパミントランスポーター 脳血流

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

老年期精神障害の神経病理学的背景として、神経変性疾患としてレビー小体型認知症 (Dementia with Lewy bodies: DLB) や嗜銀性顆粒病との関係が指摘されていたが、知見が限定的であった。神経病理学的に頻度の高い DLB では記憶障害以外にも注意障害や視覚認知障害が主体となる場合が少なくなく、アルツハイマー病の初期症状である記憶障害と比較して、その前駆状態は多彩な精神症状をはじめとして多様である。一方、多くの DLB 症例でレム睡眠行動障害 (REM sleep behavior disorder: RBD) が認知症発症と同時、あるいは年単位で先行し、臨床病理学的検討から、RBD 症状の DLB に対する疾患特異性の高さが明らかとなっている。また、特発性 RBD 患者は抑うつ状態をはじめとする精神症状を併発することが多く、特に抗うつ剤と RBD 症状の関係が明らかとなっている。そのため、老年期精神障害と DLB の前駆状態の鑑別が必要となっている。

### 2. 研究の目的

(1) Prodromal DLB の研究目的の診断基準の作成に研究代表者も参画し、軽度認知障害 (Mild cognitive impairment: MCI)、せん妄発症型、精神症状発症型の 3 亜型を定義することとなり、その内容が 2020 年に報告された (McKeith IG, et al. *Neurology*. 2020;94:1-13)。しかし、その臨床亜型が生じる病理学的背景は明らかになっておらず、さらに精神症状発症型の早期診断に関する知見は乏しい。本研究では、臨床病理学的手法を用いて、臨床亜型が生じる病理学的背景を過去の文献を踏まえ検討した。

(2) DLB の指標的バイオマーカーに注目し、高齢発症の精神症状を呈する症例における睡眠ポリグラフ検査 (PSG) と神経画像結果と臨床的特徴について臨床的に検討を行った。とくに RBD 症状を認めず、PSG 上の REM sleep without atonia (RWA) を示す一群 (Incidental RWA 群) に注目し、特発性 RBD (Idiopathic RBD 群) と RBD が先行したパーキンソン病 (Parkinson's disease: PD) /DLB (PD/DLB 群) を比較対象として、臨床的特徴の重複について検討した。

### 3. 研究の方法

(1) 臨床病理学的研究 自験症例の検討とともに過去の文献症例を踏まえ、初発症状に注目することによって、臨床亜型が生じる病理学的背景を検討した。また、各症例について臨床病理学的に検討を行った。

(2) 臨床研究 精神科病床で PSG を施行し、RBD 症状の有無にかかわらず、RWA を呈した症例を対象として、前駆症状に注目し、他の指標的バイオマーカーや脳血流 SPECT 所見における特徴を PD/DLB 症例と比較検討を行った。

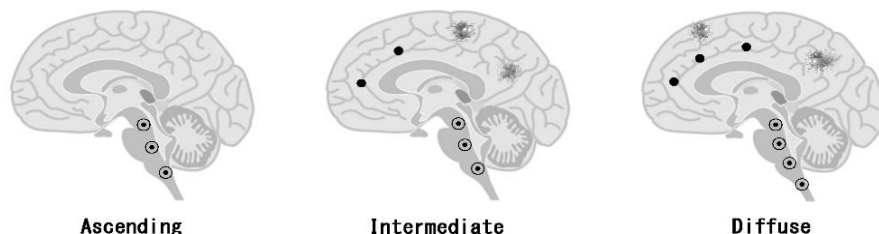
### 4. 研究成果

#### (1) 臨床病理学的研究

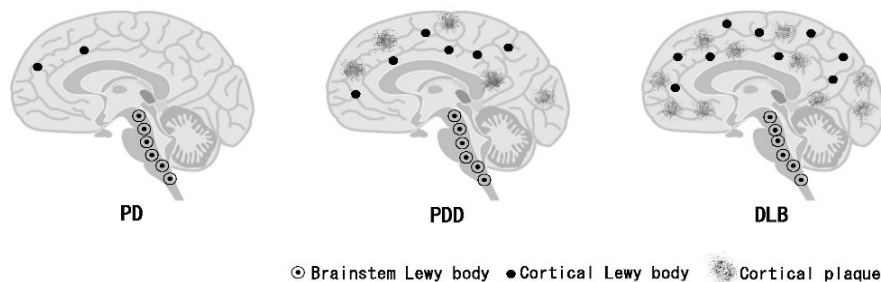
Prodromal DLB の病理学的背景を検討する上で、偶発的レビー病理の脳内病変分布について、過去の報告 (Frigerio R, Fujishiro H, et al. *Neurobiol Aging*. 2011;32:857-863, Milber JM, et al. *Neurology*. 2012;79:2307-2314) を基に、Ascending 群、既に皮質に病変が広がる Diffuse 群に分類し、その中間となる Intermediate 群を示した (図 1A) (Fujishiro et al. *Neurol Clin Neurosci* in press)。Ascending 群は、パーキンソン病のブランクステージに一致し、Diffuse 群は Prodromal DLB の状態と考えられた。いずれも脳内アミロイドの程度が軽度であった。また、多数の臨床病理学的報告から、PD 亜型、PDD 亜型、DLB 亜型を示した (図 1B)。皮質型レビー病理のみならず、大脳アミロイド沈着の程度が異なっていた。初期症状による病理学的背景の相違を検討し (Kosaka *J Neurol*. 1990;237:197-204)、神経症状群が精神症状群と記憶障害群に比較して、パーキンソン症状の程度が重度であった (表 1)。また、臨床病理学的検討から、30 - 40% の黒質神経細胞脱落を呈するとパーキンソン症状が出現すると考えられた。基底核ドパミントランスポーターの画像研究から、Prodromal DLB の段階において、必ずしも高い割合で有意な取り込み低下を示さない可能性があり、評価方法の検討も含め、慎重な解釈が必要と考えられた。アミロイドイメージング、脳脊髄液研究結果から、Prodromal DLB では、必ずしも脳内アミロイド蓄積が認知機能障害の発現に先行しない可能性があり、認知機能の顕在化したのちに更なる悪化に関与すると考えられた。また、せん妄発症型のレビー小体型病の剖検例を報告し (Fujishiro H, et al. *Int Psychogeriatr* 29:687-689, 2017)、辺縁 (移行) 型のレビー小体型病で moderate の大脳アミロイド沈着を認めた。

図1 . 偶発的レビー病理とレビー小体病の病理学的背景

A. Distribution of Lewy bodies in incidental Lewy body disease



B. Representative pathological features according to clinical phenotypes



(Fujishiro et al. Neurol Clin Neurosci in press より引用)

表1 初期症状による臨床亜型による臨床病理学的比較

初期症状	神経症状 (N = 14, 39%)	精神症状 (N = 7, 19%)	認知機能障害 (N = 15, 42%)	P 値
発症年齢	48.5 (24, 66)	68.0 (64.0, 75.0)	64.0 (57.0, 72.0)	0.068
罹病期間	8.0 (4.75, 9.5)	5.0 (5.0, 12.0)	5.0 (3.0, 7.0)	0.192
死亡時年齢	55.0 (37.25, 85.5)	80.0 (69.0, 85.0)	69.0 (65.0, 80.0)	0.158
性別 (女/男)	4/10	2/5	8/7	-
認知症の程度	3.0 (2.5, 3.0)	3.0 (1.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	0.104
パーキンソニズム	3.0 (2.75, 3.0)*	2.0 (1.0, 2.0)	1.0 (0.0, 3.0)	0.002
皮質型レビー病理	3.0 (3.0, 3.0)	2.0 (2.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)	0.008
脳幹型レビー病理	3.0 (3.0, 3.0)	2.0 (2.0, 3.0)	3.0 (2.0, 3.0)	0.010
老人斑	1.0 (0.0, 3.0)	2.0 (0.0, 3.0)	3.0 (3.0, 3.0)**	<0.001
神経原線維変化	1.0 (0.0, 2.0)	1.0 (1.0, 1.0)	3.0 (1.0, 3.0)	0.007
脳重 (g)	1230 (1108.5, 1315)	1195 (1097.5, 1287.5)	1130 (1100, 1315)	0.955

データは、中央値 (25%, 75%) で示した。神経症状群はパーキンソニズム (N = 10), めまい (N = 3), 無動 (N = 1) が初期症状であった。3 群は、Kruskal-Wallis analysis of variance on ranks 検定を用いて、Kosaka K. Diffuse Lewy body disease in Japan. J Neurol 1990; 237: 197-204. のデータより分析を行った。有意差が確認された場合、Dunn method を用いて各群間の比較を行った。

\*p<0.05 精神症状群と認知機能障害群とそれぞれ比較した場合

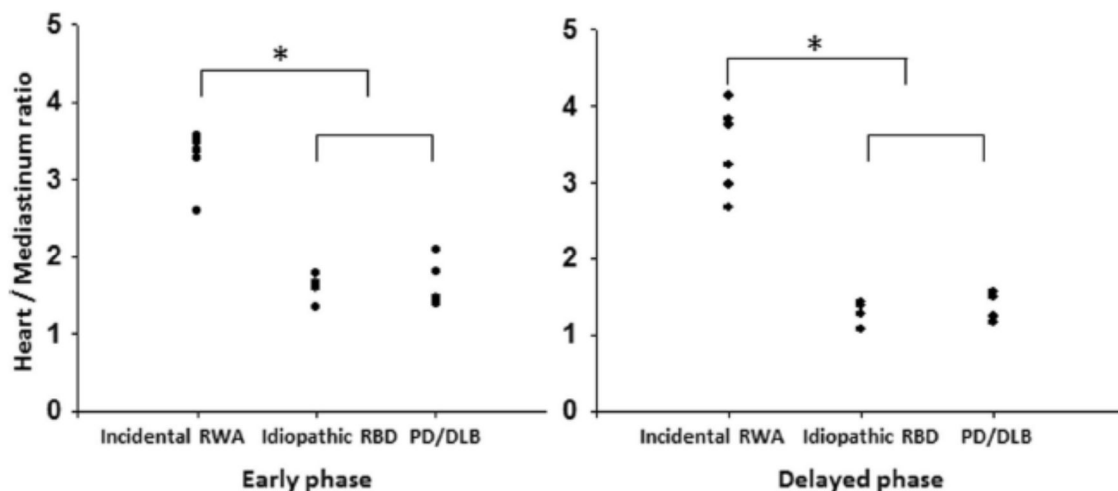
\*\*p<0.05 精神症状群と神経障害群とそれぞれ比較した場合

(Fujishiro et al. Neurol Clin Neurosci in press より引用)

## (2) 臨床研究

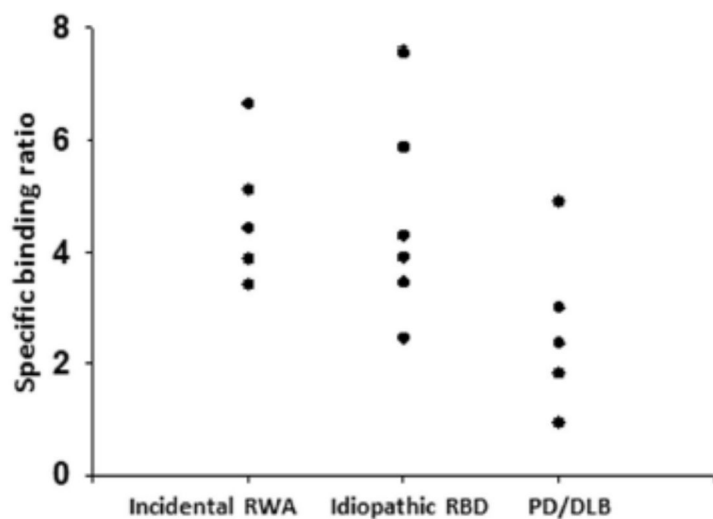
特発性 RBD 患者 (Idiopathic RBD 群) において  $^{123}\text{I}$ -MIBG 心筋シンチグラフィーの取り込み低下が早期像・後期像ともに認められる一方で (図 2)、基底核ドパミントランスポーターの取り込みは多様であった (図 3)。これらの結果は、RBD が先行し PD/DLB を発症した PD/DLB 群と同様であった。RBD の病歴が確認されないものの RWA を有する Incidental RWA 群では、MIBG 心筋シンチグラフィーの取り込みは保持され、他の 2 群と比較して、有意に Heart / Mediastinum (H / M) 比が高値であった。一方で、基底核ドパミントランスポーターの取り込みは多様であり、他の 2 群と Specific Binding Ratio (SBR) 値で重複し、3 群間で有意差を認めなかった (図 3)。また、Incidental RWA 群において、支持的バイオマーカーに分類される後頭葉の糖代謝・血流低下、cingulate island sign を含む神経画像がみられる症例を認めた。前駆症状の頻度においても明らかな有意差を認めなかった。PSG の RWA 所見は、 $^{123}\text{I}$ -MIBG 心筋シンチグラフィーの H / M 比と相関し、基底核ドパミントランスポーターの SBR 値とは相関しなかった。

図 2 .  $^{123}\text{I}$ -MIBG 心筋シンチグラフィーの 3 群間比較



(Fujishiro et al. J Neural Transm126:1095-1104, 2019 より引用)

図 3 . 基底核ドパミントランスポーターの 3 群間比較



(Fujishiro et al. J Neural Transm126:1095-1104, 2019 より引用)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計57件（うち査読付論文 54件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 72
2. 論文標題 Early diagnosis of Lewy body disease in patients with late-onset psychiatric disorders using clinical history of REM sleep behavior disorder and 123I-MIBG cardiac scintigraphy.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 423-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12651.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Fujishiro H	4. 巻 89
2. 論文標題 Neuroinflammation as a potential therapeutic target in dementia with Lewy bodies.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Neurol Neurosurg Psychiatry	6. 最初と最後の頁 328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jnnp-2017-317434.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Marui T, Torii Y, Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Fujishiro H, Oshima K, Niizato K, Hayashida S, Masaki K, Kira J, Ozaki N.	4. 巻 30
2. 論文標題 The neuropathological study of myelin oligodendrocyte glycoprotein in the temporal lobe of schizophrenia patients.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Acta Neuropsychiatr	6. 最初と最後の頁 232-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/neu.2018.6.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Fujishiro H	4. 巻 89
2. 論文標題 Vitamin D3 as a potentially modifiable factor in mild cognitive impairment.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Neurol Neurosurg Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jnnp-2017-317434.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuruta Y, Iwamoto K, Banno M, Kawano N, Kohmura K, Miyata S, Fujishiro H, Noda Y, Noda A, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 33
2. 論文標題 Effects of hypnotics on prefrontal cortex activity during a verbal fluency task in healthy male subjects: A near-infrared spectroscopy study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hum Psychopharmacol	6. 最初と最後の頁 e2678
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hup.2678.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Kimura H, Nakamura T, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 19
2. 論文標題 Hypochondriasis in the elderly and Lewy body disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 516-518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12425.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Otake H, Noda A, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 32
2. 論文標題 REM sleep without atonia in middle-aged and older psychiatric patients and Lewy body disease: a case series.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry	6. 最初と最後の頁 397-406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.4477.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Kawakami I, Oshima K, Niizato K, Iritani S.	4. 巻 29
2. 論文標題 Delirium prior to dementia as a clinical phenotype of Lewy body disease: an autopsied case report.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int Psychogeriatr	6. 最初と最後の頁 687-689
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1041610216001265.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morosawa S, Iritani S, Fujishiro H, Sekiguchi H, Torii Y, Habuchi C, Kuroda K, Kaibuchi K, Ozaki N.	4. 巻 62
2. 論文標題 Neuropeptide Y neuronal network dysfunction in the frontal lobe of a genetic mouse model of schizophrenia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neuropeptides	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.npep.2016.12.010.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ukai K, Fujishiro H, Watanabe M, Kosaka K, Ozaki N.	4. 巻 17
2. 論文標題 Similarity of symptoms between transient epileptic amnesia and Lewy body disease.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 120-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12199.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekiguchi H, Moriwaki M, Iritani S, Habuchi C, Torii Y, Umeda K, Fujishiro H, Yoshida M, Fujita K.	4. 巻 36
2. 論文標題 An autopsy case of dementia with Lewy bodies clinically diagnosed to have a behavioral variant of frontotemporal dementia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Clin Neuropathol	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwamoto K, Fujishiro H, Ozaki N.	4. 巻 71
2. 論文標題 Effect of aripiprazole augmentation for depressive symptoms changes with progression of Lewy body disease.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12479.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Onishi Y, Kimura H, Hori T, Kishi S, Kamei H, Kurata N, Tsuboi C, Yamaguchi N, Takahashi M, Sunada S, Hirano M, Fujishiro H, Okada T, Ishigami M, Goto H, Ozaki N, Ogura Y.	4. 巻 23
2. 論文標題 Risk of alcohol use relapse after liver transplantation for alcoholic liver disease.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 World J Gastroenterol	6. 最初と最後の頁 869-875
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3748/wjg.v23.i5.869.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 McKeith IG, Boeve BF, Dickson DW, Halliday G, Taylor JP, Weintraub D, Aarsland D, Galvin J, Attems J, Ballard CG, Bayston A, Beach TG, Blanc F, Bohnen N, Bonanni L, Bras J, Brundin P, Burn D, Chen-Plotkin A, Duda JE, El-Agnaf O, Feldman H, Ferman TJ, Ffytche D, Fujishiro H, et al.	4. 巻 89
2. 論文標題 Diagnosis and management of dementia with Lewy bodies: Fourth consensus report of the DLB Consortium.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neurology	6. 最初と最後の頁 88-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1212/WNL.0000000000004058.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kimura H, Onishi Y, Kishi S, Kurata N, Ogiso S, Kamei H, Tsuboi C, Yamaguchi N, Shiga A, Kondo M, Yokoyama Y, Takasato F, Fujishiro H, Ishizuka K, Okada T, Ogura Y, Ozaki N.	4. 巻 18
2. 論文標題 Successful Post-Transplant Psychiatric Interventions During Long-Term Follow-Up of Patients Receiving Liver Transplants for Alcoholic Liver Disease.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Am J Case Rep	6. 最初と最後の頁 1215-1219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H	4. 巻 89
2. 論文標題 Neuroinflammation as a potential therapeutic target in dementia with Lewy bodies.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Neurol Neurosurg Psychiatry	6. 最初と最後の頁 328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jnnp-2017-317434.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Marui T, Torii Y, Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Fujishiro H, Oshima K, Niizato K, Hayashida S, Masaki K, Kira J, Ozaki N.	4. 巻 22
2. 論文標題 The neuropathological study of myelin oligodendrocyte glycoprotein in the temporal lobe of schizophrenia patients.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Acta Neuropsychiatr	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/neu.2018.6.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤城弘樹	4. 巻 28
2. 論文標題 レビー小体病	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 787-794
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤城弘樹	4. 巻 31
2. 論文標題 レビー小体型認知症の早期診断の現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Dementia Japan	6. 最初と最後の頁 321 - 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Esaki Y, Kitajima T, Koike S, Fujishiro H, Iwata Y, Tsuchiya A, Hirose M, Iwata N.	4. 巻 12
2. 論文標題 An open-labeled trial of ramelteon in idiopathic REM sleep behavior disorder.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J Clin Sleep Med	6. 最初と最後の頁 689 - 693
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5664/jcsm.5796.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kondo D, Ota K, Kasanuki K, Fujishiro H, Chiba Y, Murayama N, Sato K, Hirayasu Y, Arai H, Iseki E.	4. 巻 369
2. 論文標題 Characteristics of mild cognitive impairment tending to convert into Alzheimer's disease or dementia with Lewy bodies: A follow-up study in a memory clinic.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J Neurol Sci	6. 最初と最後の頁 102 - 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jns.2016.08.011.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Torii Y, Iritani S, Fujishiro H, Sekiguchi H, Habuchi C, Umeda K, Matsunaga S, Mimuro M, Ozaki N, Yoshida M, Fujita K.	4. 巻 36
2. 論文標題 An autopsy case of cortical superficial siderosis with prolonged abnormal behavior.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Neuropathology	6. 最初と最後の頁 540 - 550
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1111/neup.12301.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umeda, Iritani S, Fujishiro H, Sekiguchi H, Torii Y, Habuchi C, Kuroda K, Kaibuchi K, Ozaki N.	4. 巻 70
2. 論文標題 Immunohistochemical evaluation of the GABAergic neuronal system in the prefrontal cortex of a DISC 1 knockout mouse model of schizophrenia.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Synapse	6. 最初と最後の頁 508 - 518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/syn.21924.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikura T, Katsuse O, Chiba Y, Takahashi Y, Fujishiro H, Kamada A, Saito T, Hirayasu Y.	4. 巻 628
2. 論文標題 Evaluation of titers of antibodies against peptides of subunits NR1 and NR2B of glutamate receptor by enzyme-linked immunosorbent assay in psychiatric patients with anti-thyroid antibodies.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Neurosci Lett	6. 最初と最後の頁 201 - 206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2016.06.028.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chiba Y, Iseki E, Fujishiro H, Ota K, Kasanuki K, Suzuki M, Hirayasu Y, Arai H, Sato K.	4. 巻 249
2. 論文標題 Early differential diagnosis between Alzheimer's disease and dementia with Lewy bodies: Comparison between 18F-FDG PET and 123I-IMP SPECT.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Res	6. 最初と最後の頁 105 - 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2015.12.007.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Munehika T, Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 17
2. 論文標題 REM sleep without atonia may help diagnose Lewy body disease in middle-aged and older patients with somatic symptom disorder.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 61 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12181.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ukai K, Fujishiro H, Ozaki N.	4. 巻 17
2. 論文標題 Effectiveness of low-dose pregabalin in three patients with Lewy body disease and central neuropathic pain.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 115 - 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12192.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ukai K, Fujishiro H, Watanabe M, Kosaka K, Ozaki N.	4. 巻 17
2. 論文標題 Similarity of symptoms between transient epileptic amnesia and Lewy body disease.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 120 - 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12199.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Otake H, Noda A, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 32
2. 論文標題 REM sleep without atonia in middle-aged and older psychiatric patients and Lewy body disease: a case series.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry	6. 最初と最後の頁 397 - 406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.4477	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Kawakami I, Oshima K, Niizato K, Iritani S.	4. 巻 29
2. 論文標題 Delirium prior to dementia as a clinical phenotype of Lewy body disease: an autopsied case report.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int Psychogeriatr	6. 最初と最後の頁 687 - 689
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1041610216001265.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sekiguchi H, Moriwaki M, Iritani S, Habuchi C, Torii Y, Umeda K, Fujishiro H, Yoshida M, Fujita K.	4. 巻 36
2. 論文標題 An autopsy case of dementia with Lewy bodies clinically diagnosed to have a behavioral variant of frontotemporal dementia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Clin Neuropathol	6. 最初と最後の頁 23 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwamoto K, Fujishiro H, Ozaki N.	4. 巻 71
2. 論文標題 Effect of aripiprazole augmentation for the depressive symptoms changes with progression of Lewy body disease.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 74 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12479.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Torii Y, Matsunaga S, Ozaki N, Yoshida M, Fujita K.	4. 巻 16
2. 論文標題 Hypochondriasis as early manifestation in dementia with Lewy bodies: an autopsied case report	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12128.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murayama N, Ota K, Kasanuki K, Kondo D, Fujishiro H, Fukase Y, Tagaya H, Sato K, Iseki E.	4. 巻 31
2. 論文標題 Cognitive dysfunction in patients with very mild Alzheimer's disease and amnesic mild cognitive impairment showing hemispheric asymmetries of hypometabolism on 18F-FDG PET.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.4287.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota K, Fujishiro H, Kasanuki K, Kondo D, Chiba Y, Murayama N, Arai H, Sato K, Iseki E.	4. 巻 248
2. 論文標題 Prediction of later clinical course by a specific glucose metabolic pattern in non-demented patients with probable REM sleep behavior disorder admitted to a memory clinic: A case study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Psychiatry Res	6. 最初と最後の頁 151-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12192.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Iritani S, Hattori M, Sekiguchi H, Matsunaga S, Habuchi C, Torii Y, Umeda K, Ozaki N, Yoshida M, Fujita K.	4. 巻 15
2. 論文標題 Autopsy-confirmed hippocampal-sparing Alzheimer's disease with delusional jealousy as initial manifestation.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 198-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12105.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasanuki K, Iseki E, Fujishiro H, Ando S, Sugiyama H, Kitazawa M, Chiba Y, Sato K, Arai H.	4. 巻 21
2. 論文標題 Impaired heart rate variability in patients with dementia with Lewy bodies: Efficacy of electrocardiogram as a supporting diagnostic marker.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Parkinsonism Relat Disord	6. 最初と最後の頁 749-754
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parkreldis.2015.04.024.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Nakamura S, Sato K, Iseki E.	4. 巻 15
2. 論文標題 Prodromal dementia with Lewy bodies.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int	6. 最初と最後の頁 817-826
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.12466.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ukai K, Fujishiro H, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 15
2. 論文標題 Long-term efficacy of donepezil for relapse of visual hallucinations in patients with dementia with Lewy bodies.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 133-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12089.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ota K, Murayama N, Kasanuki K, Kondo D, Fujishiro H, Arai H, Sato K, Iseki E.	4. 巻 30
2. 論文標題 Visuoperceptual assessments for differentiating dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease: illusory contours and other neuropsychological examinations.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Arch Clin Neuropsychol	6. 最初と最後の頁 256-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/arclin/acv016.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chiba Y, Fujishiro H, Ota K, Kasanuki K, Arai H, Hirayasu Y, Sato K, Iseki E.	4. 巻 30
2. 論文標題 Clinical profiles of dementia with Lewy bodies with and without Alzheimer's disease-like hypometabolism.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry	6. 最初と最後の頁 316-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.4144.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iritani S, Torii Y, Habuchi C, Sekiguchi H, Fujishiro H, Yoshida M, Go Y, Iriki A, Isoda M, Ozaki N.	4. 巻 71
2. 論文標題 The neuropathological investigation of the brain in a monkey model of autism spectrum disorder with ABCA13 deletion.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Dev Neurosci	6. 最初と最後の頁 130-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijdevneu.2018.09.002.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H	4. 巻 27
2. 論文標題 Late-life depression and Lewy body disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Am J Geriatr Psychiatry	6. 最初と最後の頁 287-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jagp.2018.11.001.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga S, Fujishiro H, Takechi H.	4. 巻 31
2. 論文標題 Efficacy and safety of idalopirdine for Alzheimer's disease: a systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int Psychogeriatr	6. 最初と最後の頁 1627-1633
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1041610218002156.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga S, Fujishiro H, Takechi H	4. 巻 69
2. 論文標題 Efficacy and Safety of Glycogen Synthase Kinase 3 Inhibitors for Alzheimer's Disease: A Systematic Review and Meta-Analysis.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Alzheimers Dis.	6. 最初と最後の頁 1031-1039
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/JAD-190256.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H	4. 巻 401
2. 論文標題 Early diagnosis of Lewy body disease in elderly individuals with subjective cognitive decline.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Neurol Sci	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jns.2019.05.004.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chiba Y, Fujishiro H, Iseki E, Kasanuki K, Sato K	4. 巻 29
2. 論文標題 The Cingulate Island Sign on FDG-PET vs. IMP-SPECT to Assess Mild Cognitive Impairment in Alzheimer's Disease vs. Dementia with Lewy Bodies.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Neuroimaging	6. 最初と最後の頁 712-720,
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jon.12643.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 126
2. 論文標題 Clinical profiles of late-onset psychiatric patients exhibiting incidental REM sleep without atonia.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Neural Transm	6. 最初と最後の頁 1095-1104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00702-019-02035-7.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Hirano M, Iritani S, Fujishiro H, Torii Y, Habuchi C, Sekiguchi H, Yoshida M, Ozaki N.	4. 巻 39
2. 論文標題 Clinicopathological differences between the motor onset and psychiatric onset of Huntington's disease, focusing on the nucleus accumbens.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropathology	6. 最初と最後の頁 331-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/neup.12578.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga S, Fujishiro H, Takechi H	4. 巻 71
2. 論文標題 Efficacy and Safety of Cholinesterase Inhibitors for mild cognitive impairment: A Systematic Review and Meta-Analysis.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Alzheimers Dis.	6. 最初と最後の頁 513-523,
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/JAD-190546.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takaesu Y, Watanabe K, Numata S, Iwata M, Kudo N, Oishi S, Takizawa T, Nemoto K, Yasuda Y, Tagata H, Tsuboi T, Tsujino N, Hashimoto N, Matsui Y, Hori H, Yamamori H, Sugiyama N, Suwa T, Kishimoto T, Hishimoto A, Usami M, Furihata R, Iwamoto K, Fujishiro H et al.	4. 巻 73
2. 論文標題 Improvement of psychiatrists' clinical knowledge of the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 642-648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12911.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyata S, Otake H, Ando M, Okuda M, Fujishiro H, Iwamoto K, Noda A, Sone M, Ozaki N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Patient characteristics affecting accurate detection of sleep apnea using a bed sheet-type portable monitor.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sleep Breath	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11325-019-01963-8.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano M, Iritani S, Sekiguchi H, Torii Y, Habuchi C, Fujishiro H, Ozaki N, Yoshida M, Fujita K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Background of the neuropathological site in neurocognitive decline in elderly schizophrenic patients.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12522.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano M, Iritani S, Fujishiro H, Torii Y, Sekiguchi H, Habuchi C, Yamada K, Ikeda T, Hasegawa M, Ikeuchi T, Yoshida M, Ozaki N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Globular glial tauopathy Type I presenting with bvFTD	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropathology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/neup.12668.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 McKeith IG, Ferman TJ, Thomas AJ, Blanc F, Boeve BF, Fujishiro H, Kantarci K, Muscio C, O'Brien JT, Postuma RB, Tiraboschi P;	4. 巻 94
2. 論文標題 Research criteria for the diagnosis of prodromal dementia with Lewy bodies.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurology	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1212/WNL.00000000000009323.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 藤城弘樹, 岩本邦弘, 宮田聖子, 鳥居洋太, 入谷修司, 尾崎紀夫	4. 巻 31
2. 論文標題 prodromal DLB診断におけるバイオマーカーの役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 232-243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Kosaka K.	4. 巻 -
2. 論文標題 When does cerebral $\alpha$ -amyloid deposition begin in Lewy body dementia?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurol Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) org/10.1111/ncn3.12372	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計73件 (うち招待講演 19件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 レビー小体型認知症の前駆症状と経過
3. 学会等名 第33回日本老年精神医学会 郡山 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.
2. 発表標題 Clinical profiles of late-onset psychiatric patients exhibiting incidental REM sleep without atonia: a case series
3. 学会等名 International congress of Parkinson's disease and Movement Disorders, Hong Kong (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 レビー小体病の自然経過：臨床病理学的考察
3. 学会等名 第59回日本神経学会 札幌 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 DLBの前駆期を含む臨床症候と早期診断
3. 学会等名 第37回日本認知症学会学術集会 札幌（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤城弘樹、奥田将人、岩本邦弘、宮田聖子、鳥居洋太、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 偶発的REM Sleep without atoniaを示す高齢発症の精神疾患の臨床的特徴について
3. 学会等名 第37回日本認知症学会学術集会 札幌
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤城弘樹、入谷修司、平野光彬、鳥居洋太、羽淵知可子、関口裕孝、三輪綾子、尾崎紀夫、吉田眞理、藤田潔
2. 発表標題 名古屋大学精神科コンソーシアムブレインバンクにおける発症年齢と神経変性疾患の関係について
3. 学会等名 第58回日本神経病理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 高齢者の気分障害（うつ病）
3. 学会等名 第19回日本在宅医学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 認知症の不眠診療の現状と課題
3. 学会等名 第113回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡田一平、藤城弘樹、奥田将人、鳥居洋太、岩本邦弘、木村宏之、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 REM Sleep without atoniaに着目した身体症状とレビー小体病の鑑別可能性
3. 学会等名 第113回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 DLB前駆状態の画像所見とPSG所見
3. 学会等名 第42回日本睡眠学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野光彬、入谷修司、藤城弘樹、鳥居洋太、羽瀨知可子、合澤祐、岩田拓、関口裕孝、三輪綾子、粉川進、藤田潔、三室マヤ、岩崎靖、尾崎紀夫、吉田真理
2. 発表標題 長期経過中に認知機能低下を示した双極性障害の1剖検例
3. 学会等名 第54回名古屋臨床神経病理アカデミー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 合澤祐、羽瀨知可子、岩田拓、平野光彬、三輪綾子、鳥居洋太、藤城弘樹、入谷修司、吉田真理、粉川進
2. 発表標題 28年の入院経過をたどったヘルペス脳炎後遺症の剖検例
3. 学会等名 第54回名古屋臨床神経病理アカデミー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Fujishiro H
2. 発表標題 Prodromal Lewy body disease: features and predictors.
3. 学会等名 XXIII World Congress of Neurology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鳥居洋太、丸井友泰、藤城弘樹、新里和弘 大島健一、眞崎勝久、林田翔太郎、入谷修司、吉良潤一、尾崎紀夫
2. 発表標題 22q11.2欠失統合失調症死後脳の上側頭回におけるオリゴデンドロサイト/ミエリンの免疫組織学的検討
3. 学会等名 第39回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 レビー小体型認知症の展望：診断率の向上と疾患啓発について
3. 学会等名 第11回レビー小体型認知症研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野光彬、入谷修司、藤城弘樹、鳥居洋太、羽瀨知可子、岩田拓、関口裕孝、吉見陽、粉川進、藤田潔、三室マヤ、岩崎靖、吉田真理、尾崎紀夫
2. 発表標題 ハンチントン病死後脳から抽出したゲノムで確認したCAGリピート数と臨床症状の関係
3. 学会等名 第36回日本認知症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤城弘樹、関口裕孝、鳥居洋太、羽瀨知可子、平野光彬、三輪綾子、合澤祐、岩田拓、岩井清、藤田潔、三室マヤ、岩崎靖、尾崎紀夫、吉田真理、入谷修司
2. 発表標題 名古屋大学精神科コンソーシアムブレインバンクにおける発症年齢による神経変性疾患の頻度に関する検討
3. 学会等名 第36回日本認知症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Torii Y, Iritani S, Fujishiro H, Habuchi C, Sekiguchi H, Masaki K, Hayashida S, Kira J, Ozaki N
2. 発表標題 Expression of oligodendrocyte-myelin in the superior temporal gyrus of a postmortem schizophrenic brain of 22q11.2 deletion syndrome
3. 学会等名 37th Annual Meeting of the Australasian Society for Neuroscience
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirano M, Iritani S, Fujishiro H, Torii Y, Habuchi C, Sekiguchi H, Yoshida M, Ozaki N.
2. 発表標題 Clinicopathological differences between motor onset and psychiatric onset of Huntington disease.
3. 学会等名 37th Annual Meeting of the Australasian Society for Neuroscience
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Iritani S, Fujishiro H, Torii Y, Habuchi C, Miwa A, Aizawa T, Sekiguchi H.
2. 発表標題 Establishment of the Psychiatric Brain Bank in central Japan.
3. 学会等名 37th Annual Meeting of the Australasian Society for Neuroscience
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三輪 綾子、澤田 翔、平野 光彬、鳥居 洋太、藤城 弘樹、合澤 祐、羽瀨 知可子、岩井 清、三室 マヤ、岩崎 靖、吉田 眞理、入谷 修司、尾崎 紀夫
2. 発表標題 長期経過の慢性期統合失調症に認知機能低下と神経症状をきたした一剖検例
3. 学会等名 第13回日本統合失調学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸井 友泰、鳥居 洋太、入谷 修司、関口 裕孝、羽瀨 知可子、藤城 弘樹、大島 健一、新里 和弘、林田 翔太郎、眞崎 勝久、吉良 潤一、尾崎 紀夫
2. 発表標題 統合失調症死後脳の上側頭回と海馬におけるMOGの神経病理学的検討
3. 学会等名 第13回日本統合失調学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 DLB患者における前駆症状を考慮したBPSDに対する予防的対応と早期治療介入
3. 学会等名 第31回日本老年精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 三輪綾子、藤城弘樹、鳥居洋太、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 不安症が先行したパーキンソン病の2症例
3. 学会等名 第31回日本老年精神医学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 玉腰悠也、藤城弘樹、鳥居洋太、岩本邦弘、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 老年期うつ病 -Lewy小体病の鑑別における神経画像検査の有用性について-
3. 学会等名 第31回日本老年精神医学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤城弘樹、奥田将人、岩本邦弘、宮田聖子、大竹宏直、野田明子、尾崎紀夫
2. 発表標題 精神科領域におけるREM sleep without atoniaとレビー小体病の関係について
3. 学会等名 第41回日本睡眠学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤城弘樹、奥田将人、岩本邦弘、宮田聖子、大竹宏直、野田明子、尾崎紀夫
2. 発表標題 中高年発症の精神疾患におけるREM sleep without atoniaの定量評価と臨床症状の関係について
3. 学会等名 第41回日本睡眠学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 丸井友泰、平野光彬、鳥居洋太、関口裕孝、羽瀨知可子、藤城弘樹、入谷修司、藤田潔
2. 発表標題 軽度認知機能低下と易怒性をともない被害妄想を呈した剖検例
3. 学会等名 第53回名古屋神経病理アカデミー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平野光彬、三輪綾子、鳥居洋太、関口裕孝、羽瀨知可子、藤城弘樹、入谷修司、尾崎紀夫、三室マヤ、岩崎靖、吉田眞理、藤田潔
2. 発表標題 統合失調症の長期経過中に認知機能低下と激しい易怒性を呈した一剖検例
3. 学会等名 第53回名古屋神経病理アカデミー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岩田麻里、藤城弘樹、内田隆之、坂田拓郎、尾崎紀夫
2. 発表標題 レビー小体病に伴う抑うつ症状へのドーパミンの関与について
3. 学会等名 第13回日本うつ病学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 高齢者の鑑別診断に有用な睡眠障害
3. 学会等名 第13回日本うつ病学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Otake H, Noda A, Iritani S, Ozaki N.
2. 発表標題 REM sleep behavior disorder in late-onset psychiatric disorders: clinical relevance to Lewy body disease.
3. 学会等名 The 11th International Congress on Mental dysfunction & other non-motorfeatures in Parkinson 's disease and related disorders. ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岡田一平、藤城弘樹、奥田将人、横井珠希、小出みあ、木村宏之、岩本邦弘、鳥居洋太、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 身体症状症とレビー小体病：REM sleep without atonia (RWA)の定量評価について
3. 学会等名 第35回日本認知症学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平野光彬、三輪綾子、鳥居洋太、関口裕孝、羽濑知可子、藤城弘樹、入谷修司、尾崎紀夫、三室マヤ、岩崎靖、吉田眞理、藤田潔
2. 発表標題 名古屋大学精神科コンソーシアムブレインバンクにおける嗜銀顆粒病の出現頻度と臨床像
3. 学会等名 第35回日本認知症学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 レビー小体型認知症の診断 早期診断の試み
3. 学会等名 第35回日本認知症学会 ( 招待講演 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fujishiro H
2. 発表標題 DLB research in Asia.
3. 学会等名 International conference dementia with Lewy bodies. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤城弘樹、奥田将人、岩本邦弘、大竹宏直、宮田聖子、蔵本絵理佳、野田明子、尾崎紀夫
2. 発表標題 REM sleep without atoniaを呈した症例の臨床的特徴：レビー小体病との関係について
3. 学会等名 第40回日本睡眠学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 認知症在宅診療における睡眠障害について
3. 学会等名 第30回日本老年精神医学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Fujishiro H
2. 発表標題 Toward accurate dianosis of dementia with Lewy bodies.
3. 学会等名 The 11th Annual Meeting of Taiwanese Society of Geriatric Psychiatry. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤城弘樹、梅田健太郎、鳥居洋太、羽瀨知可子、関口裕孝、入谷修司、藤田潔、吉田眞理
2. 発表標題 記憶障害で発症し、急速に認知機能障害が進行した69歳女性の1剖検例
3. 学会等名 第52 回名古屋臨床神経病理アカデミー
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小林健一、藤城弘樹、奥田将人、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 著しい体重減少を呈したレビー小体病の二例
3. 学会等名 第30回日本老年精神医学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 荘司寛綱、藤城 弘樹、大橋 知明、奥田 将人、岩本 邦弘、尾崎 紀夫
2. 発表標題 睡眠ポリグラフ検査がレビー小体病の補助診断に有用であった1例
3. 学会等名 第40回日本睡眠学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 加藤和子、野田明子、本多久美子、松岡弘樹、河野直子、岩本邦弘、宮田聖子、奥田 将人、藤城 弘樹、大竹宏直、尾崎 紀夫
2. 発表標題 高齢者における簡易近赤外線スペクトロスコーピー所見の検討
3. 学会等名 第40回日本睡眠学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 大竹宏直、多賀谷満彦、藤城 弘樹、宮田聖子、奥田 将人、蔵本絵理佳、山本浩志、野田明子、中田誠一、尾崎 紀夫
2. 発表標題 長期follow upによる小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群の手術後身体発育に関する検討
3. 学会等名 第40回日本睡眠学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 アジアのDLBリサーチおよびREM sleep without atoniaとレビー小体病の関係について
3. 学会等名 第9回レビー小体型認知症研究会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田隆之、藤城弘樹、岩本邦弘、前田重一、鳥居洋太、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 精神症状が前景化したDLBにおけるDAT scanの臨床的意義
3. 学会等名 第34回日本認知症学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 前田重一、藤城弘樹、木村宏之、内田隆之、鳥居洋太、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 レビー小体型認知症の初期症状としての精神症状の多様性について
3. 学会等名 第34回日本認知症学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 眞鍋雄太、横山晴子、藤城弘樹、岩田光永、小阪憲司
2. 発表標題 進行性非流暢性失語で発病したレビー小体型認知症の1例
3. 学会等名 第34回日本認知症学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 坂田拓郎、藤城弘樹、徳倉達也、荘司寛綱、大橋知明、小林健一、尾崎紀夫
2. 発表標題 後頭葉血流低下を呈したうつ病の臨床的特徴について：3症例の検討
3. 学会等名 第12回日本うつ病学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 鳥居洋太、入谷修司、三輪綾子、岩井清、平野光彬、藤城弘樹、関口裕孝、羽瀨知可子、吉田眞理、尾崎紀夫、川島邦裕
2. 発表標題 複合変性病理解像を有し焦燥・易怒性が顕著であった認知症一剖検例
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 合澤祐、関口裕孝、三輪綾子、平野光彬、羽瀨知可子、鳥居洋太、藤城弘樹、岩崎靖、吉田眞理、入谷修司、粉川進
2. 発表標題 カプグラ妄想を呈した認知症の一剖検例
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千葉悠平、阿部紀絵、服部早紀、伊倉崇浩、齋藤知之、須田顕、藤城弘樹、勝瀬大海、西野清治
2. 発表標題 精神科臨床を免疫学的な視点で検討することの意義について
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 気分障害の臨床病理検討
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬、入谷修司、藤城弘樹、鳥居洋太、関口裕孝、羽瀨知可子、合澤祐、三輪綾子、藤田潔、吉田眞理、尾崎紀夫
2. 発表標題 ハンチントン病における精神症状の神経病理学的背景
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujishiro H, Okuda M, Iwamoto K, Miyata S, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.
2. 発表標題 Clinical profiles of late-onset psychiatric patients with incidental REM sleep without atonia
3. 学会等名 International Lewy body dementia conference (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Fujishiro H, Sekiguchi H, Torii Y, Habuchi C, Aizawa T, Hirano M, Miwa A, Ozaki N, Yoshida M, Iritani S.
2. 発表標題 Primary manifestations of autopsy-confirmed DLB patients in psychiatric hospitals.
3. 学会等名 International Lewy body dementia conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujishiro H
2. 発表標題 Psychiatric presentations: Consensus criteria for prodromal DLB
3. 学会等名 International Lewy body dementia conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田一平、宮田聖子、岩本邦弘、安藤元郎、伊藤佑樹、藤城弘樹、野田明子、尾崎紀夫
2. 発表標題 精神障害患者における睡眠障害の臨床的特徴に関する後方視的検討
3. 学会等名 日本睡眠学会第44回定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩本邦弘、藤城弘樹、宮田聖子、野田明子、尾崎紀夫
2. 発表標題 偶発的RWAを呈する精神疾患の特徴について
3. 学会等名 日本睡眠学会第44回定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 合澤祐、羽瀨知可子、岩田拓、平野光彬、三輪綾子、関口裕孝、鳥居洋太、藤城弘樹、入谷修司、吉田眞理、粉川進
2. 発表標題 28年の長期入院経過をたどったヘルペス脳炎後遺症の剖検例
3. 学会等名 第60回日本神経病理学会学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤城弘樹、関口裕孝、鳥居洋太、羽瀨知可子、平野光彬、三輪綾子、合澤祐、岩田拓、粉川進、岩井清、藤田潔、三室マヤ、岩崎清、尾崎紀夫、吉田眞理、入谷修司
2. 発表標題 精神症状の出現年齢と神経変性疾患の関係について-名古屋大学精神科ブレインバンクコンソーシアムからの検討-
3. 学会等名 第60回日本神経病理学会学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 レビー小体病の精神症状の背景病理
3. 学会等名 第60回 日本神経病理学会学術研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬、入谷修司、関口裕孝、藤城弘樹、鳥居洋太、三輪綾子、羽瀨知可子、合澤祐、池田知雅、安藤孝志、吉田眞理、藤田潔、尾崎紀夫
2. 発表標題 認知機能低下を呈し、家族性特発性基底核石灰化症が疑われた姉妹剖検例
3. 学会等名 第60回日本神経病理学会学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬、鳥居洋太、三輪綾子、山田健太郎、関口裕孝、羽瀨知可子、合澤祐、藤城弘樹、岩井清、川島邦裕、池田知雅、吉田眞理、入谷修司
2. 発表標題 精神病症状と徘徊が目立ち比較的長期経過を辿ったGlobular glial tauopathyの一部検例
3. 学会等名 第56回名古屋臨床神経病理アカデミー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miwa A, Torii Y, Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Fujishiro H, Hirano M, Yoshida M, Iwai K, Kawashima K.
2. 発表標題 Neuropathological background of dementia symptoms in the illness process of Schizophrenia (formerly called Dementia praecox)
3. 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Torii Y, Iritani S, Fujishiro H, Sekiguchi H, Habuchi C, KusMizutani R, Itokawa M, Kawashima K, Ozaki N.
2. 発表標題 Neuropathological investigation in an autopsy case of schizophrenia with glyoxalase 1 (GL01) frameshift mutation
3. 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬、鳥居洋太、藤城弘樹、関口裕孝、羽瀨知可子、三輪綾子、合澤祐、吉田眞理、入谷修司、尾崎紀夫
2. 発表標題 長期罹患統合失調症にみられる認知症症状の背景病理の探索
3. 学会等名 第24回日本神経精神医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口裕孝、藤城弘樹、鳥居洋太、羽瀧知可子、平野光彬、三輪綾子、合澤祐、岩田拓、吉田真理、入谷修司
2. 発表標題 精神症状の出現年齢と神経変性疾患の関係について - 精神科病院の連続剖検例の検討 -
3. 学会等名 第24回 日本神経精神医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤城弘樹、長濱康弘、福井俊哉
2. 発表標題 Prodromal DLBについて ~ International LBD conferenceを踏まえて~
3. 学会等名 第13回DLB研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡部百佳、長濱康弘、藤城弘樹、福井俊哉
2. 発表標題 視覚認知障害に伴う否定妄想症候群を呈したレビー小体型認知症の一例
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 PSDに薬物療法は「必要ない」の立場から
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬、鳥居洋太、三輪綾子、山田健太郎、関口裕孝、羽瀨知可子、合澤祐、藤城弘樹、岩井清、川島邦裕、入谷修司、吉田眞理、尾崎紀夫
2. 発表標題 神病症状と徘徊が目立ち比較的長期経過を辿ったGlobular glial tauopathyの一部検例
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤城弘樹
2. 発表標題 DLB臨床診断基準の改訂と精神科診断
3. 学会等名 第117回東京精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 宮田聖子, 藤城弘樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 理工図書	5. 総ページ数 28
3. 書名 コメディカル専門基礎科目シリーズ 精神医学	

1. 著者名 藤城弘樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ワールドプランニング	5. 総ページ数 10
3. 書名 認知症専門医のための臨床神経病理学	

1. 著者名 平野光彬, 藤城弘樹, 入谷修司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ワールドプランニング	5. 総ページ数 9
3. 書名 認知症専門医のための臨床神経病理学	

1. 著者名 藤城弘樹, 鳥居洋太, 入谷修司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ワールドプランニング	5. 総ページ数 7
3. 書名 認知症専門医のための臨床神経病理学	

1. 著者名 藤城弘樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 5
3. 書名 非定型パーキンソニズム - 基礎と臨床 -	

1. 著者名 藤城弘樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 5
3. 書名 今日の診断指針 第8版	

1. 著者名 平野光彬, 藤城弘樹, 尾崎紀夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 8
3. 書名 神経疾患治療ストラテジー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----